

あなたの一票が、今、  
政治を動かす。確かな力に。



日本共産党北区議会議員  
さがらとしこ

日本共産党議員団

2021.10.27.No.1833

御相談はお気軽に

TEL FAXとも **3905-0970**

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)

# ジェンダ平等と日本の民主主義

## 4か国の記者から取材を受けました。



# 前川喜平氏

## With You!

10/29(金)

(ニューヴェル)赤羽台団地  
スーパーマルエツ前  
午前10:20~

東京12区 市民と野党共闘の候補  
池内さおりの応援に



投票日は10月31日(日) 期日前投票ができます。

今週号も  
部内資料でお届けします。



政策を語り、支持と訴えて走る! 池内さおり候補の車

④ 10月25日、志位和夫委員長の応援を受け、迫力と説得力の訴えをおこなった(ラガ-デンスロ) 池内さおり候補。  
⑤ その夜の集会で池内さんは、オーストラリア、南ドイツ、シンガポール、韓国のメディアから取材があったと語りました。インターネットで発信されています。

⑥ 池内さんは、「私への取材の主な点は、世界12番目という日本社会のジェンダ不平等の中で、私が4年前の国会議員以来ずっと、この問題にとりこんでいるから、今、世界の共通課題となっているのです」と語っています。

## 自公政権はコロナ禍3400ベットを削減した。

新型コロナなど感染症対応の急性期病床が、2020年度分として削減されていたことが、厚生労働省の調べで明らかになりました。

これだけベットを減らしていた。そのため、ベット不足となった。まさに、自公政治がひきおこした人災ではありませんか。裏面どうぞ。



お隣のザクロいただきました。

### 制度解説

① 小選挙区選挙は候補者名で投票します (記載例)

② 比例代表選挙は政党名で投票します (記載例)

「日本共産党」と書いていただければブロックごとの得票数に応じて党の議席数が決まり、名簿の順に当選します

こんどの衆院選挙では2回投票します

比例区 (11ブロック)

小選挙区 (295選挙区)

比例で得票を大きく伸ばし、現有2議席から3議席、4議席へと議席を増やしましょう。比例での共産党の勢いが出てこそ、小選挙区12区での池内勝利も切り開かれます。

# 自宅放置告発、転換訴え

## いのお最優先に政治こそ。

### 池内・谷川候補

新型コロナウイルスは自公政権の五輪強行で感染爆発、医療崩壊を起こしました。自宅療養者は13万5000人余に上り、8月は2500人が入院できず自宅ですぐ入院できず亡くなりました。再び惨禍を繰り返さない。総選挙で日本共産党の各候補は、自公政治の責任を問いつつ、「コロナから命を守る政治」への切り替えを訴え奮闘しています。(内藤真日子)

### 東京

「コロナにかかり、次男は酸素飽和度が80%台に落ちてまず入院できなかった。家族全員が感染したが食料支援もない。ひどい」。家族5人が新型コロナウイルスに感染した東京都北区の母親(45)は、実態の調査を進める共産党の池内さおり衆院



コロナとたたかう医師たちと訴える谷川候補(右から2人目)―東京都大田区

んでした。やがて母親と夫、長男も発熱。陽性でした。酸素飽和度を測るパルスオキシメーターが届いた翌日、次男の酸素飽和度が85%に下がります。激しい呼吸苦。119番通報で救急車が駆け付け、3時間入院先を探しますが見つからず引き揚げてしまいます。母親は決意します。「せめてスポーツ用の酸素を吸わせよう」。深夜、量販店へと向かいました。

### ようやく入院

次男の容体はさらに悪化し翌朝、再び119番。救急隊が4時間かけて探し、ようやく入院できました。自宅に残った4人にも強い倦怠(げんたい)感と味覚障害が出ます。買い物には出られません。保健所に食料支援を求めましたが、また「対象外」とされました。

「食料や生理用品を実家から運んでもらいました。実家の支援がない人はどうなるのか。税金は高いのに自己責任はおかしい。話を聞いて変えた池内さんを応援したい」池内さんは街頭で「自

宅放置の命切り捨ての政治は許さない」と強調。「消費税を財源に急性期の入院ベッドを20万床削る計画は直ちに中止。保健所や感染症病床の予算を2倍にして医療と公衆衛生を立て直そう」と訴えています。

### 医療届けたい

医師の谷川智行東京比例・同4区重複候補もコロナ最前線です。目の当たりにした現状を街頭から告発しています。

「肺炎が悪化しても入院できない。普通は97%から98%の酸素飽和度が、90%を切らないと入院リストに上がらない異常な状況。しかもそれを『原則自宅療養』といって切り捨て患者を自宅に放置した。必要な人に医療を届けるのが政治の仕事。命を軽んじる政治を絶対変えなければ」

さらに谷川候補は「コロナ禍の1年半、自公政権が検査戦略を持たないまま5回の感染の波に襲われ、緊急事態宣言と自粛要請が繰り返され命の危機と困窮にさらされた」と批判。「第6波を起ささないためいまこそ、ワクチンと一体での大規模検査が必要です。感染の火種を消していくため『誰でも、何度でも無料』のPCR検査体制をつくり出す」と力強く訴えます。

今号も部内資料としてお届けしています。

「家でコロナ感染、自宅療養した母親(右端)の話や聞く池内候補(左から2人目)と、せいの恵子(左端)、山崎たい子両党北区議―東京都北区

▶オリンピックを強行し、感染大爆発を招いた自公政権。

▶オリンピック最中の8月3日、自公政府は「原則、自宅待機」という方針を発令。

▶感染大爆発となった時期には、北区で1週間(8/14~8/20)

感染者は958人のほりました。

「戦争を生きて抜いてきた私です。戦争の表を焼かれ、食料難の中、いのちをつないできた。その私がこの時代にまた、いのちを守る政治を選択する。A.I.R.